

「環境研究センターの最新の調査・研究の紹介」

今、県民が気になる、知りたい環境の話題について、環境研究センター講師5人をお呼びして、講座を開催しました。まず、5人の講演を聞き、その後、講演ごとに5つのブースを設けました。参加者がもっと知りたいブースへ移動して、講師との意見交換会を行いました。プログラムは以下のようになります。

日時：8月11日（祝・木）10：00～12：30 会場：千葉県青少年女性会館大ホール

講師：千葉県環境研究センター研究員

講演：①チバニアソって何？ すごいことなのですね！

講師：地質環境研究室 風岡 修 主席研究員

②東京湾は、きれいになったの？

講師：水質環境研究室 飯村 晃 主任上席研究員

③PM2.5、やはり気になるその中身と近況

講師：大気騒音振動研究室 石井 克巳 主席研究員

④ミジンコを使って汚染チェック？

講師：廃棄物・化学物質研究室 山本 徹 主任上席研究員

⑤放射能！！千葉県のピフォーアフター

講師：大気騒音振動研究室 井上 智博 主席研究員

意見交換：研究テーマ（講演）ごとに分かれて、講師と意見交換

5人の講師は、最新の研究話題を、20分間という短い時間の中、導入や専門用語などを参加者に分かりやすく説明されました。地質・水質・大気・生物指標など、千葉県の環境の状況が見えてきました。また、研究センターの重要性も見え、これからの研究を県民のためにも活躍して欲しいと期待したいと思います。

5つのブースでは、講師と活発に意見交換されましたので、一部ご紹介します。

【講演テーマ①】

Q：いつ認定されるか？

A：2016年9月と言われているがイタリアが待ったをかけている。

Q：現場で磁石で測れるの？

A：普通の磁石では測れない

【講演テーマ②】

Q：東京湾は海流や潮の満ち引き等で、海を浄化していると思うが、どれくらいの期間で浄化は進むのか？

A：大体2～3週間で浄化される。

Q：マイクロプラスチックが生き物に害を与えているが、国や県は規制しないのか？

A：国や県の規制は今のところない。

【講演テーマ③】

Q：レセプターモデルによる発生源寄与について

A：市原工場地域と勝浦のようなバックランド地域では、寄与の変化がなく広域的に発生する硫

酸塩があり、地域的に変化があるあるものでは石油燃焼の発生源が際立って見られる。

【講演テーマ④】

Q：今後水質のBODやCODに代わる指標になるのか？

A：検討会では、いま検討されているところである。3種類の生物でくみあわせて水の毒性を判定できる

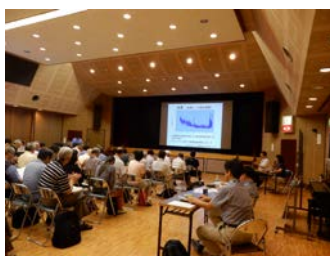
【講演テーマ⑤】

Q：事故当時自分は宮城県にいたが、津波の被害の方が大きく、放射能に関する情報やデータがしっかりと伝わってこなかったのが残念。信頼できるデータソースを教えてください。

A：「日本の環境放射能と放射線」というホームページを紹介します。

また、アンケートからは、タイムリーなテーマで、詳細なデータと説明で分かりやすかった。環境研究センターの事業について理解できた等満足されたようです。不満足では、短い時間に詰め込みすぎの印象があったとありました。

（文責：桑波田 和子）



環境講座全景



意見交換